

# 平成 26 年度第 2 回県北広域振興圏地域運営委員会議 会議録

日時：平成 26 年 11 月 20 日（木） 13：30～15：30

場所：二戸地区合同庁舎 1 階大会議室

## 1 開会

## 2 あいさつ

### 【高橋局長】

本日はお忙しい中、御出席いただきありがとうございます。また、委員の皆様には日頃から県政推進にあたりまして、御指導、御協力を賜り御礼申し上げます。

この会議については、本年度 2 回目の開催となっており、1 回目は本年度の県北広域振興圏の振興施策について御意見を頂戴しているところでございます。

本日の会議におきましては、平成 25 年度の県北広域振興圏施策評価結果と併せまして、全国的な問題となっております「人口問題」について皆様から御意見をお伺いできればと思っております。

この問題につきましては、国においては、内閣総理大臣を本部長といたします「まち・ひと・しごと創生本部」を設置いたしまして、地方の人口減少や超高齢化の課題への対応について取り組むこととしているところでございます。

また、県といたしましても、人口問題に対する取組を更に強力に推進するために、本年 6 月に知事を本部長といたします「人口問題対策本部」を立ち上げ、人口減少対策に係る検討を進めてまいりました。本年 9 月には「人口問題に関する中間報告」を取りまとめたところでございます。

少子化や人口流出によります人口の自然減・社会減は、地域の活力を大きく低下させるおそれのあるものであり、県北圏域の持続的な発展を図るうえで、各市町村や関係機関・団体、住民の皆様と一体となって、人口問題への取組を進めていかなければならないと考えているところでございます。

本日は、県北圏域全体の復興・振興に向けまして、委員の皆様のご意見をお伺いできればと思っております。それでは皆様よろしくお願いたします。

## 3 意見交換

事務局から次の資料に基づき説明

- ・資料 1 平成 26 年度第 1 回県北広域振興圏地域運営委員会議（26/6/16 開催）における意見・要望等に対する対応状況
- ・資料 2 平成 25 年度県北広域振興圏施策評価結果調書（案）
- ・資料 3 人口問題に関する中間報告
- ・資料 4 県北広域振興局における人口問題への取組方向について

### 高橋局長

それでは、只今御説明いたしました内容についての御質問を含め、皆様が日頃御活動されてのお考えやお感じになられたことなどについて、御意見等をいただければと思います。

恐縮ですが名簿順ということで、生田委員からお願いします。

### 生田弘子委員

私のほうからは、人口問題の前に、前回の会議で意見・要望があったことに対する取組、今ここの対応内容と書いてありましたが、それについてちょっとだけ教えていただきたいことがあります。それは復興についてです。野田村で 26 年 9 月上旬には切土工事完了。今年度 3 月には竣工目

指してがんばっているということでしたが、野田村の仮設住宅の方々は**全員**今考えている住宅のほうにみんな行けるような感じになるのでしょうか。それから林業ですが、整備というか管理というかなかなか大変なようなことを聞いております。緑の雇用とか林業体験であるとか、そういうところに環境税は使われているのでしょうか。その辺を教えてくださいたいと思います。

それから最後のほうになります。助成金などいい制度があるのに、知らないということが非常に多くあります。それで周知に努めているという書き方になってはいますが、どのような周知をしているのか。いい制度があるならなんとでも知っていただく、おおかた自己申告であるとかでしか知ることがないと思いますのでぜひとも周知して頂きたいと思います。

#### **内宮経営企画部長**

野田村の仮設住宅に住んでいる方が、災害公営住宅へ転居できるのかという話ですが、これについて詳細は把握していないところでございますが、一応現在の予定としましては、27年度までに、災害公営住宅、あるいは自力での再建というかたちで、27年度を1つの目標として取り組んでいきたいと考えております。それから産業関係でそれぞれの制度について周知という話がありましたが、先程申し上げました通り、県北広域振興局二戸地域振興センターでは、食産業の関係ではコーディネーターの方がおりますし、ものづくりのコーディネーターを二戸地域振興センターに配置しておりますので、その方々が適宜に事業所等を訪問することで、事業所側のニーズに応じたきめ細かい情報提供の取組を行っている状況でございます。

#### **千葉森林保全課長**

林業の質問ですが、緑の雇用に環境税が使われているのかというご質問でしたが、現在県税として皆様から各千円ずつ県民税を頂いて、それを間伐が行き届いていない森林に使っております。それから各地域で林業に関する新しいソフト事業についても支援しております。緑の雇用とどうつながっているのかという、税金を使って間伐する際に新規の雇用があるかどうかは把握しておりませんが、いずれそういうところへ役立っているんじゃないかと思っております。

#### **生田弘子委員**

すみません、1つだけお願いしたいことがあります。環境税ということについて、「見える化」をお願いしたいと思います。どんなところに使われているのかなど、私たちの話の中に出てきますので、何かの機会にそういうことが県民に見えるようにしていただければ幸いです。よろしくお願いします。

#### **伊藤地域振興センター所長**

助成金の周知方法でございますが、ものづくり企業に関しましてはものづくりネットワークを組織し、食産業に関しても同じく食産業ネットワークを組織しております。そちらのほうで定期的に助成金とかありますとメーリングリストでお知らせをしております。また岩手産業振興センターでは定期的に巡回し、この前も二戸で説明会などをしております。ただ、昨今、国の制度などは名前を変えたりしておりますので、そういったところを我々としてもすばやくキャッチしながら、しっかりとそういったところに届けるようにしていきたいと思っております。逆に、例えばそういうネットワークに入っていらない方もおりますので、できればぜひ相談に来ていただければお知らせすることもできるので、そのあたりの充実を検討して参りたいと思っております。

#### **高橋局長**

前回の意見等への**対応**についてご質問いただきました。それと併せて環境税の使い方と助成金の周知についてご意見いただきました。そのほか何か人口問題についてこうすべきではないかというようなご意見はありませんか。

#### **生田弘子委員**

私の職場には若い子がおりますし、都会に行ったのに帰ってきて仕事をしている子もいます。貴方たちが結婚しないと人口が増えなくて困るねという話をするんですが、「だって、その前に出会い

がない」って言うんですよね。二戸に帰ってきたら何が問題なのかというと、出会いがない。ちょっと遊びに行くところがないというようなことを常々言われております。なんか若者が少し息抜きをするような、喫茶店でもいいですし、おばさんたちが集まるような喫茶店に行くと、「いや、あの子はなんかふらふらしているよね」とかというような形で言われるそうです。若者が気軽に集まれるようなところがあればいいのかなと思います。交流というか、若者の地元就職とか定着支援というものが書いてありますけれども、交流する場というか、そういうところもあって、出会いがあって、そうすれば次に繋がるチャンスがあるんじゃないかなと思いますので、そのへんのところを考えていただきたいと思います。

#### **森政策監**

出会いの場というのが大変だと、我々も若い方から御意見を伺っております。行政として何が出来るかということで、直接縁結び的なことをするというのもいいんですが、そうすると登録するのに抵抗があるという方もいますし、若い男女が集まれる学習会、社会学習といいますかセミナーですとかそういうのを支援していく。あとは若い方が集まって様々な活動を行っておりますので、そういうところで学習などをやっていこうと思いますが、全般的に決め手となる出会いの場の施策というものは正直考えあぐねているところでございます。予算を出して支援するというのには一定の効果はあるんですが、それがいつまで出来て、実際どんな形で回っていくかと、何かいいアイデアがあったら教えていただけたらと思います。

#### **五日市亮一委員**

地域で農事組合を作って農業を続けているんですけど、人口の減少もあるんですが、農家の高齢化、そういう方が年々増えてきているので法人化したんですが、ここ2、3年、現実的に耕作できないという方が急激に増えているのを実感しています。農地の集積、中間管理機構、国の制度というのはあるんですが、ただ、地域の農家の人達、集積までいけるかということ、なかなかそうなれないところがあって、地域では土地改良区と一緒に集積を図ってはいますが、何回か会合を開きながら進めています。進まない大変な現実を感じています。地域の若者ですけど、法人化して農業の雇用ということで、農業以外の職員としています。営農組合の職員は20代です。ハローワークに求人の募集を出しているんですが、来る方は50代60代の方は面接で来られますが、地域営農を担うため、農業を知ってもらうために出来れば若い方を募集していますということで、お断りしているんですけど、法人化した自分達は会社を作っていますから求人出来るんですが、地域の農地を担う組織がもっともって出てこない、地域にはいないわけではなくて後継者は昔よりは多いと思っています。特にタバコの後継者は多いです、果樹の後継者も多いです。でも、どうしても水田とか兼業の人達はいないので、それを担う組織なり集落営農なりというのは国でも進めてはいるんですが、なかなか県北地域の小規模な農地を集めて誰がやるかということやれない、そういう状況もあって難しいところはあるんですが、それを進めない地域営農が、人口が減るよりも農地の衰退のほうが大きい問題じゃないかと、危機的状況だと痛感しています。地域の農地の集積もこれからの課題なんです、今、当面の今年の問題として、前にも米の問題としてご相談したんですが、今年の米価の下落というのは生産農家にとっては大きな打撃です。色んな施策はある程度の規模があって生産基盤の出来た地域だと政策に有効に行くんですが、中山間地域の零細な農家の多いこの地域では米の販売先もなく、農協を頼りにして米を販売しているんですが、農協でもそれに対策が出てこない、しかも今まで考えられないような下げ幅でこれが続くようですと、ますます水田農業をやれない、若い人が出てこないということも感じます。県北地域の米は売れないというのは今始まったことではなくて、生産調整の時から売れる米の地域が進んで、売れない米の地域は転作するというので進んできたんですけど、やっぱり、飼料用米、そっちに動くのではなくて、この地域の特徴ある米づくりというのも今強めていかないと大変じゃないかなと思っています。オリジナル品種の「きらほ」が県北地域で去年登録になったんですけど、自分が今北岩手の地域稲作生産

部会長をやっておりますので、できれば生産者の皆さんに周知して、久慈地域と二戸地域は同じ県北なんですけど、もう少し交流したほうがいいかなと思っています。久慈のサバ寿司に二戸の米を使うというのも、久慈の方が地元の米を使ったほうがいいと言うのは当たり前のことで、同じ県北の中で交流があって使うのもいいかなと思うんですが、どうしても地域の方は地元のものを使う、生産者同士で久慈と二戸の交流をして情報交換をして特徴ある米作りをこの地域で進めましょうという意見交換を農協の管内ではありますが、自分達で積極的に働きかけをして、県北全体の特徴ある米作りというのをもっと進めていきたいと思っています。それと寒冷地だから逆に病気が少ないので、昨日も環境保全型農業のセミナーが盛岡であったんですけど、交付金をもらうということではなくて、それは手段方法なんですけど、病気が少ない地域であれば減農薬の栽培が、難しいですけど、平坦な基盤整備された地域に比べれば栽培できる可能性があると思います。それと保全型農業を合わせることで、ある程度国からの制度が活用できますし、そういうのも情報として、今、営農組合では大豆と米は減農薬栽培で、豆は環境保全型で直接支払いを受けているんですが、来年度部会のほうで「エコチャレンジ米」と「ぎんおとめ」の特別栽培米を環境保全型農業に部会として取り組もうと思っています。それを県北全体の中で情報交換をしていって、どういう取り組みが出来るかというのを県北版としていただいて、進めていければなと思っています。よろしくお願いします。

#### **高橋農業改良普及室長**

特徴ある米作りの話でございましたが、もうすでに金田一営農組合さんのほうでは「きらほ」の販売ということで取組んでいただいております。まだ出口の部分が小さいので、これから久慈でのサバ寿司の取組とか、そういったものを1つの取組例として、農林振興センターとも一緒になって、普及センターでも取組を進めていきたいと思っています。

それから環境保全型農業につきましても、エコチャレンジ米につきましては、消費者の方々から農薬の使用についてオーダーがございまして、そちらの方についても生産現場で対応しなければならないということで、27年度から新しく農薬の一部を変えるようなことも含めて検討しておりますので、またそういったところにつきましても、今後、色々意見交換しながら進めていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

#### **高橋農林振興センター所長**

今、お話がありましたとおり、耕作出来ない方は、国の新たな農地中間管理事業を活用して、担い手に農地を貸してもらうように進めています。五日市委員のところが管内でも一番のモデルとして農地の集積をして、それを活用してほ場の条件等も良くしてということで、中核となる法人として支援をしていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

#### **高橋局長**

先程の法人化による雇用という観点に限らず、二戸地域では後継者の方々が他の地域より多いかなと思っているんですが、その辺は何が功を奏しているとお感じになりますか。

#### **五日市亮一委員**

ちょうど世代の変わり目だというのが一番多いと思いますが、後継する人たちが戻ってきているというのは、どこか魅力があるからじゃないかと思っているんですが、自分より上の年代の人達は苦労してきたので、零細な畑作地帯、雑穀を経験して、だからみんな出て行ったんですけど、今の息子たちは何か違うような気がします。逆に県内のいろんな法人の組合の方に聞けば、基盤整備されたところには定年を終えた年配の方がオペレーターをやって、若い人がいないというのをよく聞くんですが、県北地域ではけっこう若い人がいるなあと思っています。

#### **高橋局長**

そのへんのところを農業の方にPRしていけばいいかと思っています。

#### **大崎由美子委員**

人口問題ということなんですが、今まで日本の独特の言葉で、「もったいない」とか「おもてなし」

という言葉がもてはやされましたけれども、なんとなく次のキーワードは「おせっかい」なのかなと思っていまして、例えば林業のほうで後継者がいないということで、緑の雇用という支援を行っていますというお話をいただきましたし、林業に限らず、地域就農者に対する支援というのも色んなところで出ていますけれども、問題は入口にあるのではなく、支援というのはおそらくみんな年数が決まっていて、2年間なり3年間なりで終わり、あとは自分でどうぞという制度ばかりだと思うんですが、大体の問題は制度が終わったあとにおきまして、その時に相談する人がいない。九戸村にはナインズファームという新規就農者に対する支援がありまして、今まで何年間かやりましたが、Uターンで元々九戸の人でよそで働いていて戻ってきてその制度を利用した人もあれば、全く別の地域で関東からご家族でもしくはお一人で利用した方もあるんですけど、ほとんどの方は支援が終わった後は農業に就かずに違う職業に就いたり、元々いた関東に帰ってしまったりがほとんどなので、やはり制度が終わったら関係ないというよりは、そのあとおせっかいする方がいるともっといいんじゃないかなと思うんですね。ただただおせっかいをやいてくださいといっても困るので、職業としておせっかいをやる方があっていいんじゃないかなと。ちょうどこの近くにマツモトキヨシというドラッグストアがオープンしましたが、ご存知の通り創業者のマツモトキヨシさんは確か千葉県松戸市でなんでも「すぐやる課」っていうのを作ったと有名ですけど、そういうちょっと公務員という仕事を超えて、おせっかいをやるのもいいんじゃないかと。資料の中でも定着するためのコーディネーターという話もありましたので、取組んでいращやると思うんですが。ジャーナリストの池上彰さんの受け売りなんですけど、今年3月くらいにIBCで岩手の復興についての番組があったと思うんですが、地方の人口減少を救うというキーワードで、「よそ者」、「若者」、「馬鹿者」っていうキーワードを出されて、すごく納得したんですね。というのは私自身、大学から関東に行きまして関東で就職して、今から15年前に戻ってきたんですが、15年前のことをすごく思い出しまして、先程生田さんのほうから喫茶店にいくとふらふらするって、まさにそういう経験がありまして、もともとこちらにいた人間でも、正直仕事うんぬんっていうよりは田舎独特の空気とか雰囲気というのにドン引きすることがたくさんありまして、自分がこの地域で生まれた人間でなかったらたぶんさっさとここを出ていくだろうなということがけっこうあったんですよ。例えば健康のために道路を歩いていると、ひま人だと後ろ指を差されたりとか、戻ってきてすぐなぜか生命保険の勧誘の方が働きましようとお勢いいらっしゃったりとか、突然お見合いの話がたくさんきたりとか、中には自分で履歴書を持って結婚しませんかとか、今はするつもりはありませんと、その時は一気にそれが押し寄せてきたので、心を閉ざしてしまうほうに行っちゃってしましまして、そういうときに田舎はこんなところですよっていう、私は実家にいたからあれですが、よそから来たらおそらく恐怖で出て行ってしまうだろうって思うんですね。そういう時にこういうところですよっていう、なんていうのかコーディネーターって言葉なんでしょうけど、おせっかい役の人があったらいいなって思っています。

先程の環境税は森林税ってことでよろしいんですね。たまたま何年前に森林税の審議会の委員をやっていましたが、そのときの会議の中でも全く周知されていないということについては話がよく出ていまして、それから何年かたっていますけれども、私も審議회를離れてしまったらば、ほとんど名前を目にすることないし内容を目にするともなくなってしまったんですが、一応合庁に来てもいいですよとなっていますが、わざわざ会議にいらっしゃる方もいませんし、すごくいい取組はあるんですが、なかなかそれが皆さんに知られていないというのはもったいないと思いますので、林業に従事している人はもちろん、それ以外の方にもよく知ることになるといいなと思います。

#### **高橋局長**

木炭業界は、若い方はきているのですか。

#### **大崎由美子委員**

若いと言っても、60～50代、最近新しく始めたというのはいないですね。どんどん減っていま

す。

### **小笠原巨樹委員**

私は久慈まめぶ部屋といいまして、「まめぶ」を通して久慈をPRするボランティア団体を立ち上げて、現在5年目に入るわけですが、ここに書いてあるような観光の振興や、地域産業の振興というところに関わっているとは思いますが、自分達は最初に町おこしをしようということで、立ち上げたわけなんですけど、そこには久慈を元気にしたいという思いと、自分は久慈市と合併する前の山形村の生まれでして、とにかく最初の活動としては「まめぶ」をPRしながら地域を良くしたいということだったんですけど、それとともに山形村を忘れて欲しくないという気持ちがあったと思います。そういうモチベーションがありながら、みんななんで一所懸命やっているのかということとそこが大変大きかったと思うんですけど、そうしたら久慈市の人も一所懸命応援して下さるようになって、そういうところでまたテーマとして、久慈市と山形村をお互いにリスペクトしあえるような関係になっていければなというところがあったので、こういうボランティア団体に対して、振興局長さんもいつもB1グランプリに来ていただいて、実際に手伝っていただいて、行政の方に手伝っていただかないとこういう活動は成り立っていかなくて、今回同行していただいた長澤さんにはyoutubeを通して今回の大会の様相をPRしてもらっているというところがあって、そういうところで振興局の職員さんは特にB1の成り立ちやイベント内容を体に入れてPRしてくれているという感覚がありまして、以前の松岡振興局長さんからそういうところで大変心強く精神的にも支援していただいていると思います。自分達はそういう活動を通してやってきたわけですが、魅力の乱反射という言葉で自分達の仲間内では使う人がいるんですけど、「まめぶ」で久慈をPRするのは結局久慈方面でやっていくと飽きられやすいというか、言ってることは常に一緒ですし、同じ思いは持ってやっているわけですが、それに付随して何か出てくる、もちろん琥珀とか白樺とか海女さんとか言うのは今回の三陸鉄道もそうですし、いろんな面が久慈にはあるんですけど、それが混ざり合って、それぞれがすごく確立されたものですけど、久慈にはまだまだ魅力的なものが隠されていると思うんですよね。それを掘り起こして普段皆さんのとなりに当たり前にあるから重要だと感じないものでも、他の人から見ると何これと興味を持ってもらえるようなものが絶対あると思うので、アピールしたい人に手助けしてもらえば、たぶん「まめぶ」も自分達が活動した当初は山形村では認知度9割以上、久慈市では1割以下というものでした。それがあまちゃんの効果もあったんですけど、現在は地元の高校生に「まめぶ」を作ってもらったりとか、そういう交流活動もできるようになりましたし、立ち上げ当初からは今は信じられないような状況になっていますので、引き続きそういう人に対して支援していただければ、その人たちも勇気を持って持続的に活動する可能性も増えてくるのではないかなと思います。プラスして人口の定着ということでは仕事が重要になってくると思うんです。自分は林業をずっとやってきているんですけど、自分のところは山があって作業委託をして今までやってきたわけなんですけど、作業委託先がすごく高齢化が進んで、今年になって二人ほど高齢のため仕事から抜けなくてはならないような状況になっています。作業するには細かい技術とか経験が重要で、リスク管理もそうですけど、林業はケガが多い仕事ですけど、どうやってケガのリスクを回避するかを見て習うわけですよね。そういう経験値のあるベテランの人たちの仕事を見ないで作業に入らせるのがとても怖いわけです。自分は人を雇っていない状態でやっているわけですけど、すごく勿体なあと思っている。だから若い人をそういう人たちへいったん預けて、来てもらうのが一番いいのに、なかなか雇うところまでいかないというのが現状でして、その場面場面で林業というのはいろんな段階があると思うんですけど、自分はやっと人を雇えるような状況になってくるかなって、先程の話じゃないですけど情報弱者にならないよう、こちらもアンテナを立てなきゃならないし、細かいことでも情報を教えていただくことがあれば粘り強く情報発信していただきたいなと思います。なかなかその情報に対してリアクションを取れない、取る余裕もないことが多くて、心苦しいんですけど、粘り強く情報をいただければなと思います。

### 高橋局長

ありがとうございます。最初に言うのを忘れていましたが、B1 **グランプリ** 入賞おめでとうございます。

### 奥寺文夫委員

久慈市で自主防災の事務局をやっているんですが、今日も久慈保健所さんで傾聴ボランティアの研修会をやっているんですが、私も傾聴ボランティアの研修を受けて、1年のうち何回か修了者に対して案内をいただいておりますが、先日もお話ししましたが、地域における自損行為の検証というんですか、弱者をなくしましょうという関係の事業といますか、よくお話しするんですが、孤立する方をなくするには会ったみなさんに声をかけて近況報告という形で声をかけていくというのを民生委員さんとか区長さんとか町内会長さんとか、地域の主だった方々にお話をしているんですけども、その中でつい最近お話があったことは、若いご夫婦、小さい子どもを持っている方にも何か支援できることはないのかなという話がありまして、じゃあそれぞれ若い家族の方に色々なことを聞いてみて、皆さんで話し合ってみませんかということをしたところ、30代で2、3歳の子どもを持っている方、自分が今いる地域に慣れてきたら定着したい、知ってる方のそばに住めれば嬉しいなというのを何世帯からか聞いたというのを話題にしたんですけども、そういうことであれば久慈市でも空き家対策とか様々やっているんだけど、地域でもやったらどうかということをお話した経緯がありまして、若い家族が地域に定着するという点に関して何か支援できるかなということがありまして、振興局ではどのような取組があるのか教えていただきたいです。

### 吉田保健福祉環境センター所長

傾聴ボランティアをやっているということではほんとに心強いと思います。自殺の関係がでましたけれど、ほんとにおっしゃるとおり、地域で悩んでいる人困っている人の声をキャッチして、それを繋げていくのはとても大事なことだと思っています。あわせて若い子どもを持っているお母さんたち、子どもの検診に併せて市町村の保健師さんが家庭訪問をやりまして、困っていることとか、子育ての悩みとか、今、様々なところでお聞きかもしれませんが児童虐待といますかネグレクトとかあるなかで、市町村、それから民生委員の方々と取組んでいます。地域の取組が大事だと認識しております。

### 高橋局長

質問の趣旨とあっていますでしょうか。ありがとうございました。

次は久慈委員さんお願いします。最初に言いますが、**評価員** 特別賞おめでとうございます。

### 久慈浩介委員

ありがとうございます。昨日まで香港に行っておりまして、例のデモを含めた、そのそばにもうちのお得意様があるんですけど、行ってまいりました。色々な話を聞いてきて、人口問題ということで、思いましたんですが、僕の得意先の香港のスーパーで働いている中堅社員の営業の方は女性なんですけど、お子さんが生まれてすぐ仕事に復帰しておりまして、子どもはどうしているのって聞いたら、当然保育園とか幼稚園とか色々あるんだろうけど、メイドが見ていると。メイド喫茶じゃないですよ。あの国は、すごいんですよ、フィリピン人のメイドがいっぱいいて。メイド、へえ～、俺もメイド欲しいなって思っているくらいなんですけど、どんなもんなのって聞いたんですね。値段とか含めて。そしたら住み込み、日曜だけ休み。日曜日は香港中のフィリピンメイドたちが一ヶ所に集まるとんでもないことになっているんですけど、日曜だけ休みなんです。後はずっと住み込みで、料理、洗濯、掃除、子どもの世話、全部みてくれますと。だから本人は朝行ってきますと言って、ご飯食べて会社に来て一所懸命仕事して帰るとあったかいご飯が出来ていて、子どもは寝かしつけている。昼は子どもにご飯を食べさせていて、メイドは毎日写真を送ってくる。子どもの世話を全部させて、じゃあ、自分のパンツとかブラジャーまで洗わせるのと聞いたら、当たり前ですと、全部やらせますと、へーっと思ったけど、東大出の超一流企業の役員じゃないですよ、普通

の社員、それでいくらすると聞いたんですよ。いくらすると思います。住み込みで子どもの世話も飯もやって、日本円で3万円だそうですね、1ヶ月。3万円！って、あなたの給料いくらってさすがに聞けなかったんですけど、大体給料から想像すると、おそらく三万円だったら10分の一も占めるかなって、みなさんならどうします。3万円です。実はその女の方のお父さん、お母さんが、脳梗塞で倒れて、麻痺が残っていて、それはどうしているのかと聞いたら、それもメイドがやっている。365日。それは別の保障があってもっと安いと聞いていたんですけど、そういうものなんだそうですね。何が言いたいのかというと、日本で働きたくても働けない人はたぶんいっぱいいるし、働く場所がないのはしょうがないけど、やろうと思ったら盛岡に働きに行ったりできるんじゃないですか、今だったら。でも働くことによって負うリスクというか、いっぱいありすぎて、これ3万円です。みんなやってくれるなら、日本でやったらみんなメイド雇うだろうし、俺はぜったいやるし、でもうちの奥さん働いてないから意味ないか。でも、そのくらいだと思えます。だから日本の文化的にそういった外国人のメイドの仕事、法律が許せばやるかもしれないけど、じゃあ、フィリピン人に預けるかといったら、フィリピン人で固定するのはよくない、外国人に預けるかといったら、う〜んというのはあるんだけど、いずれそういうことがない限り、抜本的なことをしない限り、日本は人口は増えないですし、当然僕は移民を入れない限り絶対増えないという論者ですから、だから入れたいというわけじゃないんですけど、移民がない限りは無理なんです。これも移民の話をする、アメリカのロサンゼルスに私の仲間の酒蔵、ロサンゼルスで日本酒を作っているんですよ。日本のメーカーが出資している蔵があって、その部長が私の同級生なんです。彼は東京の農業大学醸造学科を出て、その後農大の大学院に行って、コンタクトレンズの会社に入った変な男なんですけど、コンタクトレンズの会社からアメリカの企業に転身をして、今は非常に優秀な成績を残しているんですけど、彼いわく、日本人は等しく日本人を使ったら、給料に格差がなさ過ぎるというんですよ。そりゃそうだよ、うちも日本人の職人を使っていたら格差は出せないよと言っているんですけど、やつらの考え方は全く別で、だから酒造りなんて分業だろと、全てを決める杜氏とか、三役みたいところは、いい給料もらってちゃんとした人がやればいい。だってあとは洗い物だろ、その通りだと、助手だと。じゃあ、そこはどうしているのって聞いたら、全員メキシコ人だそうですね。それを決めるトップは日本人なのかと聞いたら、違う、アメリカ人。日本人はたったの2人。3人くらいアメリカ人と、ほとんどがメキシコ人。だからメキシコ人の給料はめちゃくちゃ安いんですよ。そうになっているから。それはそれでいいじゃない。それでもとても一生懸命働いてくれる。いっぱい使えるからいろいろできるという言い方するんですね。そうか、日本じゃそれは出来ないなど。確かに日本の制度があるから、人種で給料変えるなんてそんなことできないし、そういうこともしなきゃいけないんだなど。確かに言われてみると。レストランも同じだよって言われるんですよ。レストランに行って、和食のレストランに行って、寿司を握っている花形の職人は日本人、当然年収2千万くらいもらっているんですよ。寿司握るだけで。そのぐらいの価値があると。じゃあ、裏でキッチンやったり皿洗ったり掃除したりしている人は全員、移民、メキシカンとかの方々です。それはそれで割り切っているんですよ。あいつらに頭を使うような労働させるわけじゃないからと。言われたことをただやってもらうだけでいいんだと。社会がそうになっている中で動いている方の考え方は違うんだなって思いました。だから日本も多分、これ資料がすごく出来ていて素晴らしいけど、おそらく47都道府県全部こうやって考えても、何にもならないと思う。今の世代が考えて、心配して、実際自分達がじじいになったら、「あの時話してたけどやっぱりそうだったか」って終わると思う。抜本的な大きな改革をしない限り、人口は増えません。フランスが色々やって出生率が上向いたと聞いているけど、あのぐらいの改革をするか、もしくは移民を入れて、人口を増やすか。そうしなければいけない。この東北だけの話をすると、やっぱり大学とか専門学校がないと無理ですね。若者が50%減っているというのはびっくりしたけど、びっくりしたけど確かにそうかもしれない。高校卒業したらみんないなくなっちゃうんだもん。俺もいなくなっちゃったけど。大学行きまし

たから。前も言いましたけど、岩手医大の医学部のサテライトセンターとかそういうのを作ったりとか、県立大学の分校を作るとか、そういったことをしない限り無理ですよ。だからローソンのコンビニの店長たちが夜中仕事してるんですよ。朝行くと眠そうな顔をして、「今日も夜勤だった」って。だって夜勤する若い人たちがいないんだもの。そこのローソンだって、いつも同じ人ですよ、うちでバイトしていた人がいつもやっていますけど。1週間のうち6日夜勤入ってますから。結局そういう人たちがいない盛岡の人から考えると、分からないと。そういうことがないと、抜本的に変えないと、人口増えません。どんなに十文字さんが頑張っても、やっぱりそれは変わらない。なにかしらそういった教育機関を入れるなりしない限り、変わらないじゃないかなと思います。一番は学校を作って欲しいなと思っています。

#### **澤口松男委員**

今、久慈さんの衝撃的なお話を聞き、私も同感だなと思いました。私も今フィリピンの研修生の受け入れをしているんですが、日本の法律上最低賃金は絶対守らなければならないのがありますので、今年奥中山で野菜農家さんもいなければ野菜が作れないという騒動があったんですが、何の解決にもならず、そのまま終わってしまいました。それで私の方からも人口問題に関して今気がついて、もう遅いんだよと言いたいと思います。明日から子どもをいっぱい作りましょうと言っても、20年かかるわけです。そうやるには、国はどう考えているか、政府はどう考えているかわかりませんが、大変だ大変だといっても、何の解決もしてこなかった。あと20年といたらもっとひどくなります。ですから私のいうことに目をきつくしてこられるかもしれませんが、私が思うに、なんで昔、私たちの親父たちが明日の飯食うのもないのに子どもを作ってきたのか、育ててきたか、やっぱり子孫繁栄、それがやはり人間に生まれてきて当然のことだったからやってきたと思うんです。それを疎かにしたら人間は滅びます。絶対私はそう思います。結婚もある程度年とって、30歳35歳になって子どもを作れる時期が過ぎる前に、結婚できなかつたら独身税っていうのをかけて、俺は消費税より絶対いいんじゃないかなと思うんです。こういう考え方は私だけかもしれませんが、そこまでしないと今はそういう形でメスを入れていかないと、遅いんじゃないかと私は個人的に考えております。ただ、難しいとは思いますが、色んな意見があると思うので。私は平成16年まで酪農家、小さい30頭ばかりでやっていましたが、このままだとこのあたりの酪農家はなくなるなと思いつつ、まわり近所の農家と土里夢農場を共同経営で立ち上げました。当初は、「共同でやってうまくいくはずがない」と言われました。横目で見られて、今まで共同でやってうまくいったことはないというのは確かにありました。でも私は、そのまま自分だけでやって、もし自分だけ残っても、隣はやめていくのではないかという危機感がすごくありました。それでなんとかやりたいなと思って、自分の夢もありましたし、続けて自分はこれで飯を食うんだというのがありましたし、じゃあ4人でやろうかというのがあって今は12年目に入ってますが、今になってやっとまわりから、まだ評価は頂いていないんですが、まだ継続できると自分では思っています。自分の息子や構成員の子どもが継いでくれるんじゃないかという夢がすごく大きくあります。18年にはえさ工場まで一緒に動かしていますが、そういう流れの中で次、ただ儲ければいいんだという経営じゃなく、いかにして続けようかと考えていますので、これからもそういう形で。中山の畜産農家は、20年前120戸もあったのが今45戸しかありません。その農家をいかにして残そうかということで苦労はしてますけれど、とにかく今日、明日のことじゃなく、あと何年か後のことを考えて、皆さんが知恵を出し合えばけっこういいことが出来ると思います。ただ今日からだあと20年かかります。

#### **寿松木 亨委員**

私は縫製工場をやらせてもらっているんですが、女性の多い職場で、やっぱり体調の面とかも含め女性は休みが多いので、色んな支援をして頂きたいということと、ちょっと今久慈市で有効求人倍率が上がってきて、今年ずっと募集を出していますが人が来ないです。だから1日3時間とかフ

レックスとまでは行かない形で今月中に1回広告を出してみようかなと思っています。ただ、1日2～3時間の仕事で最低賃金の分稼げる人がいるかっていうとやっぱり経験者で5年以上でないとならば最低賃金の分稼げないと思います。そういう部分で1日3時間くらい、午前中は洗濯して掃除して子どもを出してやって、午後3時間くらいだったら働けるという人ならいるのかと思って募集を出すんですが、やっぱり最低賃金を稼げる人というのは少ないので、そこに対する支援等をしていただければ、最初の半年間は月1時間300円支援しますとやっていただければ、半年の間に最低賃金稼げるまで育てるとか、もし最低賃金を稼げないなら、内職で1枚いくらでやってもらうとかたちで色々考えていました。あとは縫製業に関しては県のほうでファッションショーとか首都圏とのマッチングをやっていただいて、認知度の向上に関しては本当に感謝しています。ただ認知度アップに関して、これからなんですけど、私もお客さんのところに行くと、県北はこういう状況で縫製工場いっぱいあるんですよという、そうなんですかという方がかなりいます。今、小ロットの小さいアパレルさんたちは作る場所がなくて困っています。うちも正直、社会保険まで払ってやると合わないの、お断りさせてもらっている部分はあるんですけど、パート10人と社長1人くらいだったらたぶんちゃんと利益が出せる仕事だと思うんですけど、技術があれば。そういうことで、小ロットの小さいアパレルさんで工場探しているところもあります。今後の縫製業に関しては、日本国内含め海外のほうにも発信して欲しいなど。僕らが選択できる範囲を広げていただければ、うちも一時期中国で生産していたんですけど、やはり日本の技術と仕事に対するまじめさ、気遣い気付きという部分は世界一だと思います。見ていなくてもやってくれる、まじめに作業するというのはなかなか、世界に発信しても、仕事のやり方も、正直工場はそんなにきれいじゃないですけど、みんな働いている人の仕事に対する意識は、世界に発信できるものだと思いますので、ぜひ今後、縫製業だけじゃない部分のものづくり、色んな気遣いという部分は世界に発信できると思いますので、ぜひ色んな機会、チャンスをいただければ助かります。よろしくお祈りします。

#### **高橋局長**

最後のところは、海外からの受注に向けてということですか。

#### **寿松木 亨委員**

そうですね、僕らが国内のアパレルさんだけでなく、アメリカでも、フランスでも、そういうところの有名アパレルさんからオーダーいただければ、有名アパレルさんは商社が間に入ってくれるので、資金面も通訳面も問題なく出来ると思いますので、そして技術に関しては全然問題ないと思うので、できればトライしたいなど、話があれば。

#### **大光テイチ委員**

現在、地域包括センターで保健師をしております、介護の関係、認知症の支援、ひきこもり等の訪問をしております。資料で25年度の色々な施策を見まして、各分野ともがんばっているんだという印象を受けました。人口問題につきましては、正直言ってこれを見て、消滅可能性の中に、県北圏がほとんど入っているなあと、それはもちろん予想はしておりました。私この地区で保健師をして、就職した当時は旧種市地区で350～360人産まれていたのが、今は50～60人です。5分の1。町が消滅するねと言っていたんですけど、このように目の当たりにして本当にショックを受けましたし、早く対策しなければこの通りになるなど実感しました。人口問題につきましては皆さんが話したとおり、やはり国がやるべきこと、県がやるべきこと、市町村がやるべきことそれぞれ役割があるとは思いますが、根本的な対策とすれば、人口をいかに維持するか、産んでいただくかということ。たとえ産んでも、うちもそうなんですけど、子どもを4人産んだんですけど、一人しか残っておりません。みんな東京、関東方面に行っちゃいましたので、一極集中ということ、どうやって地域に戻ってもらうかということ、地域そのものが活性化していないので、若者がこの地域に住みたい、残りたいと思っていない、そう思えるためにはどうしたらいいのかと考えればいいのかかなと思って、色々メモしてこの資料を見ましたらほとんどまとまっております、17ペー

ジには自然減への対応、未婚者とか色々ありましたけれども、出会いの問題等がありました。19ページには社会減への対応、それから21ページには定住促進まで書かれて、まさしくその内容の通り、それに具体的に取組んでいかなければならないと感じました。そこで若者の出会いの場や喫茶店なんて本当にありません。食堂はあるけど、喫茶店がないので。出会いの場として、お見合いなんていうと抵抗感があるだろうし、うまくいかない今の子達はプライドがあり、すごく傷つくんです。ですから若者のスポーツ交流会とか、若者だけを対象としたパークゴルフ大会など、そういうもので交流することでお互いの人間性がわかるのかなど。テニスも今非常に注目されているので、スポーツ交流会と、その後の懇親会みたいなものを開催する。それからおせっかいおばさんがいて昔は結び付けたんですけど、ある程度町とかが支援した信頼できる人。ここにも書いてありましたが縁結びアドバイザーは必要ではないかなど。親は昔ほどどこかにいい人がいないかしらと歩きませんし、歩いたとしても子どもたちはそれを拒否しますので、やはりそういう専門家を置くのはいいのかなと思います。若い女性の社会的減少が男性より多いということでしたので、なぜなんだろうということ、もしかしたら実施しているかも知れませんが、若い女性へのアンケートを実施して、そこから実態を把握してみてもどうか。なぜ都会に行くのか、なぜ都会に残ってしまったのか。あるいは戻ってくるためにはどうしたらよいかを聞いてみるのも必要かと思いました。21ページに移住の支援のところなんですけど、都会から田舎暮らしにあこがれてきても、やはり先立つものがないと夢破れて戻るといふのもあると思うので、モデルケースみたいなもの、マンガなんかでも岩手県で出していますよね。例えば都会なら35万の収入があるかもしれないけど、家賃が7万から10万だよとか、こっちはもしかしたら20万かもしれないけど、家賃は3万から高くても5万くらいとか。そういう平均収入、家賃とか生活費、保育費なんかを比較してみる。プラスアルファで田舎でのメリット、待機児童はありませんみたいな子育てに優しい町。もちろん保育指導も入るし、子どもの医療費の助成、今は小学校だけじゃなくて中学校くらいまで伸びてきているし、赤ちゃんの検診費はほとんど無料ということもありますので、そういうところが社会減対策になるのかなと思いました。それから、若者が町を歩いていない。高齢者しか歩いていないので、少子化で大学も厳しいですが、関連するようなものを誘致すること、現在例えば岩手大学とか県立大学等もあるわけですから、そういう頭脳を活用して連携して、起業家への支援。大きなものづくりはこちらは不利だと思うんですけど、例えばITじゃないけど、知恵とかでも商品化できるので起業家への支援。それから、さっき言ったように地元には宝があるけど気付いていないところを発掘していただくとか。それから伝統産業、漆などあるんだけど、わたしもよくわからなくて漆は取扱い面倒、ちゃんと乾かさないと使えなくなるなど、変なイメージがあるんですけど、それをどうしたら住民に普及していけるか、どういうものに応用できるのかという、ニーズの調査、商品開発等の知恵をいただければいいのかなと思いました。最後になりますが、人頼みで悪いんですが、都会のほうは土地も高いし、新聞を見れば地方で起業したいという会社が少しずつ増えているようなので、企業誘致しやすいように環境の整備。またきても能力が追いつかないと先程も出ていましたが、対応できる人材。高校とか専門学校がいいのかわからないけど、そういう人材育成もすると、若者が地元思考になるのではないかなとこれを見ながら感じました。

#### **松田昌子委員**

私は今、孫3人と娘夫婦と一緒に住んでいますけど、娘が言うには軽米は子育てしにくいっています。公園がないんですよ、子どもを遊ばせる場所がないし、昔だと保育園で遊ばせられたのに、今は遊ばせられないっていうか、入れないようになっています。ここに乳幼児医療費助成などの全国一律化ってありますが、軽米町の場合は、学校に入る前は町外の病院に行っても無料なんですけど、学校に入ってから町外の病院に行くと医療費が出ないんです。保育園にいつている間は保護されているのかわかりませんが、学校に入ると花粉症とか耳鼻科、眼科って、町外の病院に行かなければならなくなります。時間もお金もかかって大変だと娘は言っています。私の近

所も高齢化が進んでおりまして、私が若い方になるんです。1人で住んでいる方が2、3人いて、外に出るのも好きじゃない感じなんです。お隣にはおそば作ったときには食べてって持って行ったりしています。八戸から何年か前に戻って来た人がいるんですけど、買い物は牛乳屋さんが週に2回来て、生協も利用しているようです。ただ、病院に行くのが町内のバスがあんまりないので、病院に行くのが大変かなと思っています。娘と一緒に住んでいないと、私も子育てのことなど分からなかったと思いますけれども、娘の愚痴を聞いてわかったような気になっています。22年には娘夫婦は戻ってきました。同じ松田なんですけど、5分くらいの所に、そちらも22年に戻ってきて、私の地区では人口が増えて子どもたちの声も聞こえて良いなと思っています。みなさん親と同居しています。けっこう毎日朝起きて寝るまで一日中賑やかに過ごしています。

#### 高橋局長

はい、ありがとうございました。時間の都合もありまして、ご回答できない部分もありましたけれども、まだ何かお話されたいことがありますか。

#### 森政策監

色んなご意見ありがとうございました。澤口委員さんが言われたように例えば明日、人口置換率2.1を達成したとしても90万人ほどまでは低下する見込みでございます。そのためにも社会経済システムを抜本的に価値観を変えるところまでやらなくてはならないのですが、ただこれはある地域だけ変えてもしかたない話ですので、国に対してご相談申し上げたい話でございます。それよりも何よりできるのは、今子育てで苦勞なさっているお父さんお母さんがたの声を聴いてそこに福祉関係またはそれぞれの施策をうつのが一番早いのかなど。若い方が集まる場、サークルとかになると思うんですけど、そういう場への支援のほう色々考えていきたいと思います。今後とも色んなご意見お待ちしておりますのでよろしくお願ひします。

#### 高橋局長

はい、色んなご意見いただきましてありがとうございました。先程のご意見の中にもありましたように、人口問題対策、国でやるべきこと、県で取り組むべきこと、それから振興局でできること、色々あるとは思いますが、頂いたご意見等を参考にしながら取り組んでいきたいと思ひますのでよろしくお願ひ致します。以上を持ちまして本日の会議を終了させていただきたいと思ひます。

#### 生田弘子委員

最後にちょっと皆様の貴重な時間をいただきまして、1分だけお話させていただきます。カシオペア環境研究会です。今度11月22日に県北広域振興局の委託を受けまして、恒例の環境会を開催いたします。岩手青森県境の日本一のごみの山の現場の状況を皆様にお知らせすると共に、今回は久慈地域、それから二戸地域はブロイラー産業が盛んでございます。それにとまって鶏糞の処理に大変苦勞しております。先程五日市委員から聞きましたけれども、鶏糞をちゃんと使っていると、そうやって使っているところがたくさんあればいいんですが、処理に大変苦勞しておりますので、今度その鶏糞を資源として地域で作り出すエネルギーということで、バイオマス発電所が軽米町の晴山に出来る予定です。一企業の挑戦ではございますが、地域で作り出すエネルギーということでお話をしてもらおうことになっていまして、ぜひとも皆さんに参加して頂きたいと思ひます。チラシを配らせていただきます。

## 4 その他

(特になし)

## 5 閉会